

- 1: 南アメリカ大陸は日本から見て () の反対側にある。太平洋側には 6000mを超える () 山脈が連なり、大西洋側にはギアナ高地とブラジル高原がある。() 川は世界 2 番目に長い川で、流域面積は世界 () である。その川の流域は () 林が広がり、アルゼンチンやチリ南部には温帯が広がっている。ラプラタ川下流のアルゼンチンでは () とよばれる草原が広がり、小麦の栽培や牛の放牧が行われている。ペルーやアルゼンチン南部などでは乾燥帯が見られ、南アメリカ最南端は () 帯になっている。
- 2: もともとアンデス山脈沿いの () 帝国など先住民の作った高度な文明が栄えていたが、() やポルトガルによって植民地にされた。そのためキリスト教の () が広まっている。スペインやポルトガルは労働力としてアフリカから黒人が () として連れてこられた。また、先住民と白人の混血の () や黒人と白人の混血のムラートなど混血の人々も増えた。その後も人種や文化の混合が進んだ。リオデジャネイロの () はヨーロッパと () の文化が融合したものである。アマゾン流域には先住民が () 農業を営んでいる。しかし、開発や観光地化で先住民の生活が変化している。
- 3: ブラジルでは 16 世紀からサトウキビが、19 世紀には (☆) がプランテーションで作られ、今では世界一の生産をほこっている、その後も (☆) に頼る () 経済になっていたがその価格や生産減に経済が左右されるので () やサトウキビ、オレンジ、鶏肉・牛肉の生産が増やされている。こうした生産物はアメリカ合衆国などの () 企業に対っけられている。大豆をしばって食用油や飼料を作り輸出し、サトウキビのしばりかすは () として利用される。南米大陸は鉱産資源も豊かで、ブラジルの ()、チリの ()、ベネズエラやエクアドルは () の生産が多い。(◎) やアルゼンチンは工業化も進み、特に (◎) は海底油田の開発もあり経済の発展が進んでいる。一方で農村で機械化により職を失った人が都市へ流れ込み、() を形成された。
- 4: 19 世紀にアマゾンのマナオス付近に () の大農園が作られ、さらに鉄鉱石が発見されると鉄道や道路が作られ、熱帯林の木が伐採された。そのあと地は () や農地に変えられた。また () が川に作られ、熱帯林がますます減少した。こうして () 化が進んだり、貴重な生物が絶滅したり、先住民の生活がおびやかされたりしている。ブラジルでは () 燃料を使う自動車も普及しているが、その材料のサトウキビの栽培で環境が汚染されたり、土壌の流出が進んだりしている。それを防ぐために () にそって畑を耕したりしている。

まとめのノート 9

☆ 南アメリカ州

> 様々な人々

- ・インディオの文明 → () ・ポルトガル人が侵略、植民地化
 - 労働力にアフリカの黒人が奴隷として連れてこられる
 - 19・20世紀には () 系人やインド系移民も増加
- ・現在、混血がすすんでいる

> 世界最大の熱帯雨林

- ・ () の広大な熱帯林 → 人口増により、焼畑で減少
 - 近年は木材の伐採や牧場開発でさらに減少、様々な生物が絶滅

> 農業国から工業国へ

- ・以前は農作物や鉱産資源に頼る

ブラジル： () 豆、鉄鉱石

チリ： ()

ベネズエラ： ()

アルゼンチン：牛肉

- ・ブラジルが近年、高度経済成長。BRICSのひとつに